

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

	2歳 たんぼぼ組
施設名	妙福寺保育園
施設所在地	練馬区南大泉5-6-47
法人名	宗教法人妙福寺

1. 活動のテーマ

<テーマ>

落ち葉

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭には落葉樹が多く、落ち葉は身近なものである。日頃から落ち葉を使ったままごと遊びをしたり、落ち葉には色々な形や色があることを発見したりする姿が見られる為、その感覚を更に広げ深めることが出来れば、子どもの楽しみや喜びが増え発想も広がると考え、全身を使って落ち葉の感触や音を楽しむ活動をすることにした。

2. 活動スケジュール

6月1週 園庭や境内の木の葉を種類別に分ける。葉の大きさ、形、厚み、感触を比べる。

<子どもの様子>ままごと遊びに使う姿も見られるが、葉を枝から外す、破く、表裏の感触の違いを比べるなど、葉そのものの感触を味わう直感的な遊びをする姿が多く見られた。水を入れたタライを用意すると、葉を水の中に沈めたり、浮かべたりして、気持ちよさそうに感触を味わっていた。



6月3週 園庭のヤマモモの実を採って食べる。身近な果樹に興味を持つ。

<子どもの様子>食べられる実が園庭で採ることができることを知った。再び果実が実ったら食べられることを楽しみに、生育具合を確かめるように木を見上げる姿が見られた。ヤマモモの実と同じ匂いがするかもしれないと葉の匂いを嗅いでいる子もいた。

7月2週 花壇で育てたキュウリを収穫し、キュウリの塩もみを作って食べる。
<子どもの様子>ヤマモモを食べた経験から、園庭で採れたものを食べることを楽しみに、水やりをして育てていた。キュウリの花が咲いてからどのように実が育っていくのか興味を持って見る子がいた。収穫した新鮮なキュウリにはトゲがあることを知り、そっと触ってみる姿が見られた。

11月2週 林へ遠足に行く。お気に入りの葉やどんぐりを見つける。季節を感じ、葉の色が変わることを知る。

<子どもの様子>紅葉を見たり、どんぐりを拾ったりして、季節を感じていた。どんぐりは拾うだけではなく、踏んでみたり、中身がどうなっているか興味を持ったりする姿が見られた。



12月1週 境内や園庭で落ち葉拾いをする。大きさや形、感触の違いに注目し、袋分けをする。

<子どもの様子>境内や園庭の落ち葉を集める。厚みがあり触るとパリッと手応えのある葉、破ける音が小さい薄く脆い葉、湿気のある葉、よく乾燥した葉といったような違いを感じて、袋分けしながら集めていった。歩くとフカフカした感じがしたようで、覆いかぶさるように寝転がり、身体全体でも感覚を味わっていた。



3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

落ち葉 (お風呂用、紙袋に入れて音を楽しむ用の乾いたもの)

お散歩バッグ (紙袋で作った肩掛けバッグ)

段ボールの囲い (全員が入れる大きさ)

滑り台 (移動可能なものをお風呂のところへ持って行く)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「使う」「つくる」ことを目的にするのではなく、乳児が自然と出会い五感を使って楽しむことをテーマに、子どもの姿に応じた活動を行っていった。葉を拾ってままごとの食べ物に添えるということに留まっていた遊びから、どんぐりや石や花びらなどの他の自然物にも目を向け、遊び方への発想力を高める。食べる経験をすることで植物の育ちや変化に興味を持っていく。季節の移り変わりによって身の回りの自然が変化していくことを知る。落ち葉遊びでは、全身を使いながら保育者と思切り落ち葉で遊び、自然のもので遊ぶ楽しさに浸る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

落ち葉遊びでは、身近にある落ち葉を使った新しい楽しみ方を知り、声を出しながらお風呂へ飛び込んだり、音が鳴る紙袋に目や口を付けて「かわいい」と言って持ち歩いていた。滑り台では、友達が滑る前に落ち葉の山を作ることをお互いにやってあげる姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

導入では、絵本から出てきたような人形を登場させたり、落ち葉の手紙を読んだりしながら語り掛けていった。子ども達は物語の世界に引き込まれ、これから始まる落ち葉遊びに対する期待感を膨らませている表情が印象的であった。境内へ散歩に出掛けた際には落ち葉だけでなく、花、枝、小石、どんぐりを見つけて、大切に持って保育者へ見せたり、友達と見せ合ったりする姿が多く見られた。いいものを見つけた嬉しい気持ちに共感してもらい、発見する喜びを味わっていた。落ち葉を夢中になって踏み無邪気に寝転がる姿、落ち葉を紙袋に入れて振り、鳴る音に耳を澄ます姿は、一人ひとりが自分の興味や楽しみを追及し遊びに没頭する正に子どもらしい姿である。これらの自然遊びを経て、子ども達は「自然は面白くて楽しい」ということを実感していたと感じる。